

仲多度・善通寺支部 活動報告

1 研究主題

『生き抜く力を育むためのメディア教育』
ーメディア活用の目的を明確にした
授業作りの研究ー

2 はじめに

現在は、「第四次産業革命」と言われ、IoT
及びビッグデータによる新たなネットワー
クシステムと、A I に代表される人工知能
やロボットの発達による市場の広がりが期
待される。

一方、同時に消失していく職種も増える
可能性がある。つまり、今まで人類が経験
したことの無い急激な産業構造の変革期と
もいえる。

こうした急激な社会の変革期に、現在の
中学生は社会で働いていかなければならな
い。そのために、われわれ教員は、どのよ
うなメディア教育を生徒に施していくか、
真剣に考えていかなければならない。

特に、主体的・対話的で深い学びを充実
するためには、自己の考えを整理したり、
表現したりするツールとして、I C T 機器
の活用が効果的である。メディア部会では、
その具体的な実践事例を紹介し、生徒の情
報活用能力や問題解決能力を育み、これか
らの社会を切り拓く力を養いたいと考える。

3 研究内容

(1)研究の過程

①5月1日(月)

香中研仲善支部総会

場所：善通寺市立西中学校

内容：研究組織の編成・研究主題の設定
・研究内容の検討

②7月28日(金)

香中研仲善支部教科外研究会

場所：まんのう町立満濃中学校

内容：各校の実践事例研究・メディア機
器の活用研修

(2)実践事例

①テレビモニター・プロジェクタの活用例

・道徳

映像資料を見せる。

・国語科

パソコンにある資料をモニターに
映して見せる。

・社会科

D V D などの映像教材を見せたり、
板書をプレゼンテーションソフトで
提示する。

・理科

顕微鏡で見ている部分をモニター
に映して見せる。まとめや振り返り
にNHKの10 min.ボックスを視聴
する。

・英語科

資料を見せる。

・保健体育科

マット運動などで、演技を撮り、
スロー再生で確認させる。集団行動
やダンスの模範演技を見せる。

- ・音楽科

演奏の様子を生徒に見せる。

- ・美術科

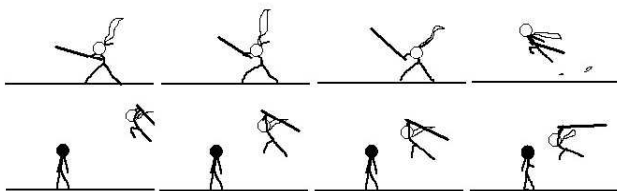
絵画や生徒の作品を拡大して詳細に見せる。プレゼンテーションソフトを活用して生徒に作品を見せる。



② コンピュータ室の活用事例

- ・美術科

発想力や空間認知能力を高めるために、2年生が白黒で簡単にアニメーションが作れる EasyToon というソフトを利用して作品を制作した。実際のアニメーションのように描けるためソフトの操作説明で1時間、制作は1時間の計2時間を使って制作している。



- ・技術科

3年生が沖縄の修学旅行をまとめた新聞作りをしている。



③ 教科以外での IT 活用事例

善通寺市では学校用グループウェアが全小中学校に入っており、出張等の公文書はすべてグループウェアを通して先生方に連絡されている。



出張や行事の予定もすべてグループウェアを通して見るために、常に最新情報を見ることができるようになった。現在は、グループウェアを使ってほぼ全ての先生が行事の確認や出張の確認、連絡などを行っている。

④ 協働学習のツールとしてのタブレット P C活用事例

タブレットP Cが導入された当初は、調べ学習のツールでしかなかったが、協働学習支援ソフトを利用する先生が増えてきた。このソフトは、ノート（模造紙）をネット上で共有するというものである。

模造紙の上に生徒全員が書き込んだり、付箋を貼ったりするのと同じ状況をP Cで行うことができる。ネット上なのでリアルタイムで情報が更新され、全ての端末でそれが確認できる。生徒は個々に1台の端末に向かうことになるが電子黒板に映し出すことによって、全体を黒板の方に集中させ、まとめを行うことができる。

ア 2年職場体験学習のまとめ

職場体験学習のまとめとして、職場ごとに新聞を製作した。一人一台のタブレットP Cで作業は個々に進められるが、同じ用紙に書き込む感覚になるので、意見交換をしながら上手にまとめることができた。

イ 家庭科のミシンの実習

支援ソフトでミシンの使い方動画のリンク集を作り、授業で利用した。一人一台のタブレットP Cを使用できるようにしたので、生徒は必要な時に必要な動画を見ながら作業を進めることができた。

ウ プロジェクタの利用

ランチルームにはプロジェクタが常備されており、学年ごとの集会で、生徒の発表や外部からの講師を招いての講演会などが行われている。このプロジェクタに、タブレットP Cを併用して利用して

いる。具体的には、テレビモニターなどを利用して生徒の作業の様子を瞬時に映し出したり、支援ソフトの内容を映し出したりと、その利用方法は多岐にわたるようになってきた。

⑤ 体育科でのタブレットP C活用事例

ハードル走や水泳のターンの動きを教師や他の生徒がタブレットP Cの動画で撮り、それを見ることで、自分の動きを修正することができる。



⑥ 技術科でのタブレットP C活用事例

授業の流れは、LEDの構造やはたらきを教師が説明した後、LEDの実験装置を使って実験を行い、実験結果を話し合い結論を導き出す授業形態をとった。その際、グループでまとめた考えをタブレットP Cのメモ機能を使いまとめさせた。通常であれば、ホワイトボードや紙面に書き込むのであるが、タブレットP Cを使ったのは、そうしたものにない大きなメリットがあるからである。まず第一に、書いたものがすぐに大型テレビモニターに投影できる。投影の仕方もグループ全部のタブレット画面を表示する方法もあれば、一グループのみのタブレット画像を拡大表示する方法もあり、必要に応じて使い分けることができる。先生

機のタブレットP Cのスカイメニューを使えば、こうした使い分けが簡単に操作できる。



第二に、生徒のタブレット操作の技能向上が図れることである。タブレットP Cのメモ機能を使えば、指先で文字を書けるし、付属のペンでも文字を書くことができる。また、生徒によればタブレット画面にあるキーボードを使い文字を入力する生徒もあり、生徒の自主性を自然に育むことができる。

第三に、ホワイトボードであれば、消せば何も残らなくなるが、タブレットP Cであれば、生徒の書いた文章がそのまま、残すことができる。後で教師が授業の展開を振り返るときに大いに役立つ。

4 今後の課題

各学校ともに、コンピュータは元より、大型テレビモニターやプロジェクタなどの ICT 機器が充実しており、ほとんど格差が見られなくなった。また、タブレットP C等も普及しつつあり、生徒は常にインターネットにアクセスできる環境にある。こうした中で、学校の教育現場では必要に応じて、いろいろな取り組みがなされており、高い教育効果をもたらしていると思われる。

しかし、課題がないわけではない。多くの生徒は、生まれた時から携帯やスマホのある SNS の世界で生きてきており、そこに潜む危険性に気がつかないことがある。殊に発信をすることそれが個人情報に関することでも、

躊躇なく行ってしまう傾向がある。自殺サイトを利用した殺人事件など、まさにこうした環境のため起こった事件といっても過言でない。

そこで、SNS を介した悲惨な事件を防ぐためにも、しっかりとした情報モラル教育が必要である。また、SNS を利用するのは家庭であり、家庭の保護者も巻き込んだ啓発活動が必要である。

メディア教育の推進はしていかなければならないが、情報モラル教育も同時に行っていかなければならない。